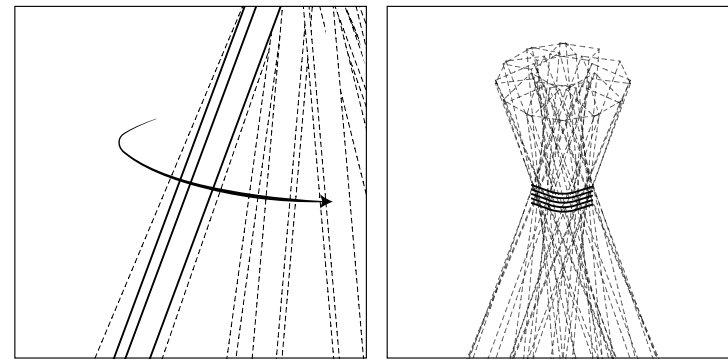
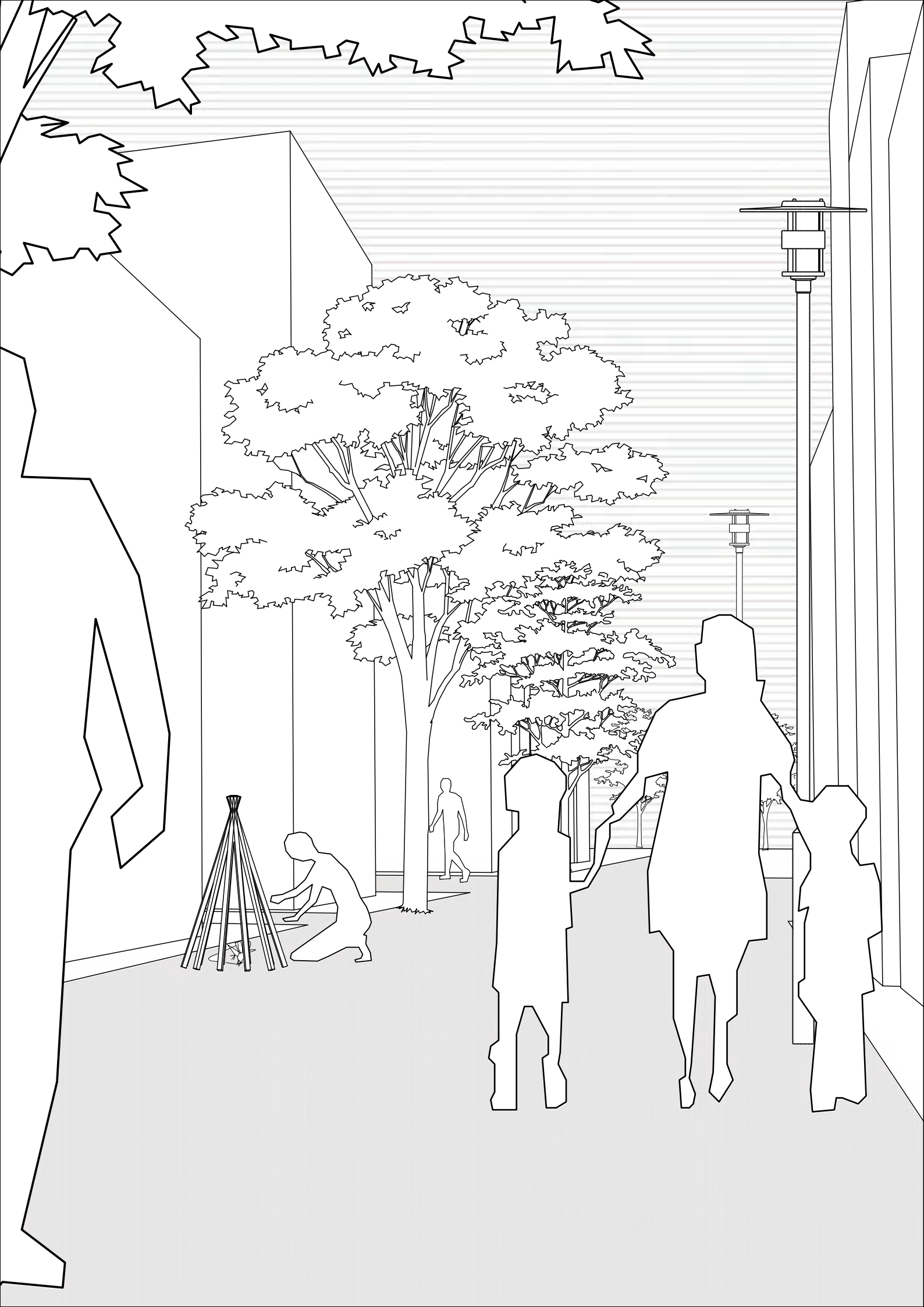
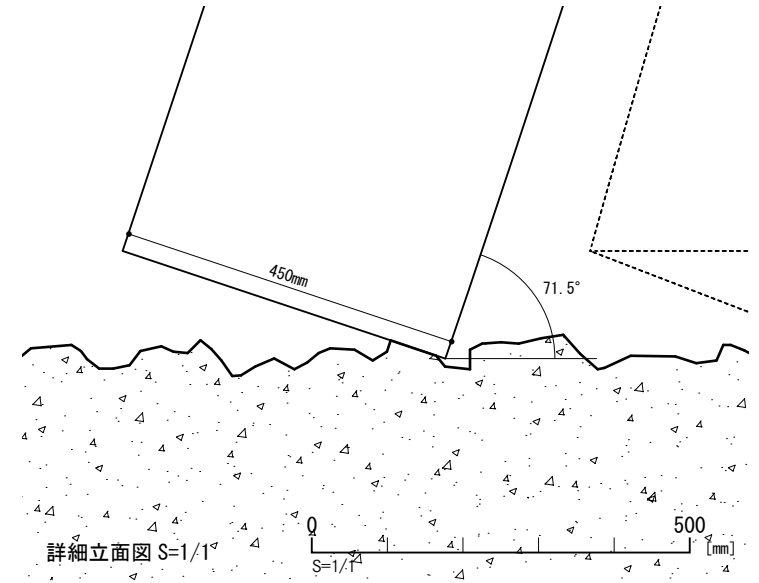


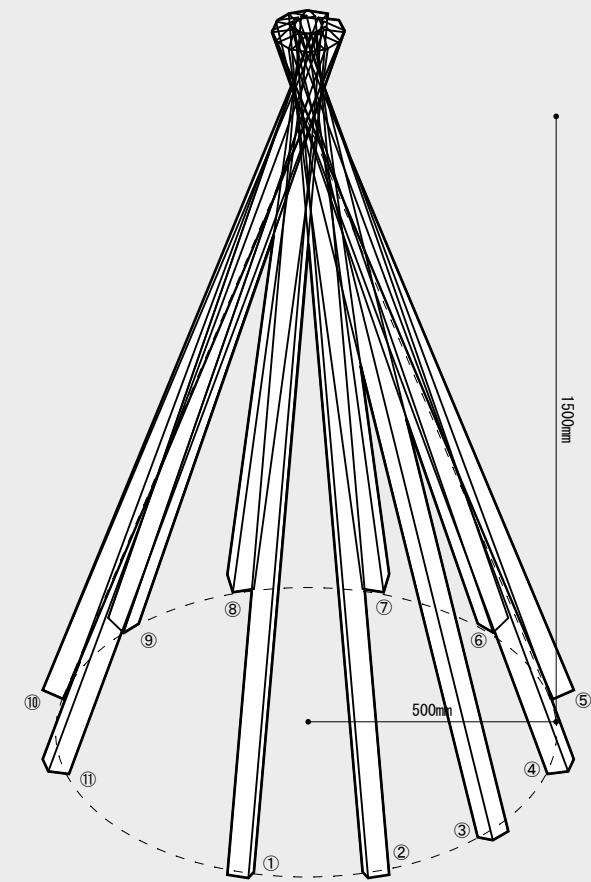


角材を紐で括ることで献花を守る空間を作ります。
場所によって、太さ、長さ、本数、円の大きさを
変化できるフレキシビリティを持ちながら、普遍
的な象徴性も併せ持つパビリオンです。

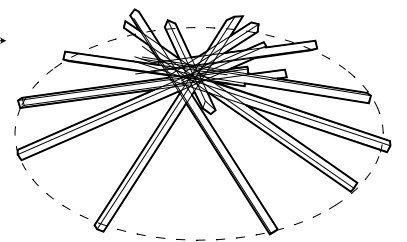
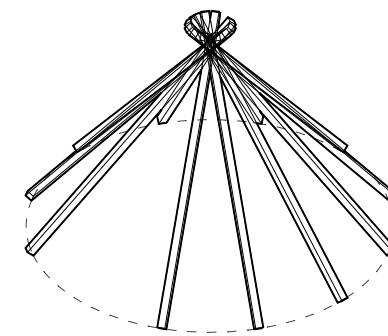
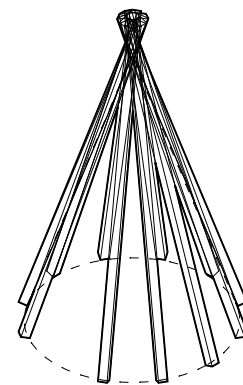


ここでは道路での事故を想定し、45×45×1800mm 角材を 11 本で、半径 500、高さ 1500mm の空間を作ります

アイソメ S=1/15



0 500
S=1/15 [mm]



事故現場にパビリオンが立ちました。
生まれる隙間は人々と献花を接続しつつ
故人と自然をもつなげます。

雨や風によって傾き始めました。
人の介入で修繕されるかもしれませんし
自然に身を任せるかもしれません。

パビリオンが崩れます。
建築と共に故人は自然と一体化すること
で、ケガレは祓われケへと戻りました。